

R I 第 2820 地区

THE WEEKLY REPORT



水海道ロータリークラブ

本年度クラブテーマ

ENJOY ROTARY

SERVICE Above Self

2005-06 年度 国際ロータリー会長
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

3月15日

会員卓話 職業奉仕

3月22日

外部卓話 ハローワーク水海道所長

3月29日

休会 定款第5条により

4月5日

外部卓話

VOL. 43 No.31 (通算No.2071)

2006年3月8日(水)例会プログラム

点鐘

ロータリーソング・四つのテスト

ビジター紹介

出席報告

SAA報告

諸報告

幹事報告

会長挨拶

外部卓話

デーブ大久保氏



つくば研究支援センター代表取締役専務 綿引典之様

2005～2006 年度

会長 青木 清人

幹事 熊谷 昇

創立 1963年9月25日

例会場・例会日

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790

常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30～13:30

0297-22-1251

事務所

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386

釜久ビル 3F

0297-30-0875

Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://kinuyou.com/rc/>

本例会でのおもな事項

* 会長挨拶

* 外部卓話

つくば研究支援センター 綿引典之様

ピジター

(株)つくば研究支援センター代表取締役専務 綿引典之様
常総私立水海道小学校教諭 鈴木忠雄様

誕生祝

会員 横山 修会員 山崎善市会員
配偶者 田中会員 山崎(善)会員 横山会員
島田会員 石塚(克)会員 小島会員

鈴木忠雄先生挨拶



この度は、ロータリークラブさんからの後援を頂き有難うございます。水海道小学校金管バンドは平成7年に編成されました。昨年度よりマーチングに挑戦しました。1年目にして銀賞を受賞し、今年は金賞を取ることを目標に頑張り受賞しました。3月5日には応援して下さいました方々に感謝の意を含めミニコンサートを企画しました。是非演奏を聴きただければと思います。宜しくお願いします。

幹事報告 (熊谷 昇幹事)

週報受理 つくばシティRC

例会変更通知受理 なし

委嘱状伝達式



北村 仁会員



瀬戸 隆海会員



石塚 克己会員

会長挨拶 (青木清人会長)

皆様、こんにちは。

本日のゲストスピーカーとしてつくば研究支援センターの綿引典之様、水海道小学校鈴木忠雄先生にお越しいただきました。会員一同ご歓迎申し上げます。綿引様には、昨年暮れにスピーチのお願いを致しましたところ、快くお引き受け頂きました。改めて感謝申し上げます。

さて、いよいよ3月に入りました。三寒四温を繰り返しながら春めいてくるのですが、何となくワクワクするものです。しかし、鈴木IPPのように憂鬱になる人もいます。花粉症です。朝日新聞に花粉症について載っておりました。製薬会社が川柳を募集したのだそうです。

「花粉症 笑ったあいつも 今年から」……私も気をつけたいと思います。

「見てみたい ある日突然 治る夢」……特効薬は無いのでしょうか。

「この歳で!? 嘆いた祖母は 82」……老若を問わない。

「あっ雨だ 今だ花見だ 買い物だ」……降れば降ったで忙しい。

また、旅行会社では「花粉疎開の旅」が企画されています。北海道の上士幌町(杉が1本も無い町)へのツアーは、10人の定員に276人が応募、同様に石垣島、奄美大島の旅も企画されているとの事です。ヒマと金のある花粉症の方、是非応募して下さい。

また、3月には同時に次年度、松村年度のスタートの準備が始まります。3月5日(日)地区研修セミナー、3月25日・26日PETS(会長エレクト研修セミナー)、4月16日(日)地区協議会と続きます。軸足が次第に次年度へと移って行きますが、次年度に迷惑をかけないように本年度残りの事業(谷和原のグランドゴルフ大会等)を進めてまいりたいと思います。会員の皆様のご協力お願い致します。

外部卓話 (株)つくば研究支援センター代表取締役専務 綿引典之様

「筑波研究学園都市の現況とTCIの活動」

(株)つくば研究支援センターの活動

設立:昭和63年2月 開業:平成元年7月 設立形態:第3セクター法式(民活法1号施設
リサーチコア) 資本金:28億円(茨城県18.3%、開銀15%、民間73社66.7%)

リサーチコア

研究開発・企業化の効率的推進と地域の産業構造の高度化を促進するために以下の4つの施設を備えた研究開発拠点として指定。 レンタルラボ 研修室 交流施設 インキュベーション施設

つくば研究支援センターの運営方針

- ・当社は、「つくば」に立地するという特長を最大限に活かし、産学官の研究者の交流・連携をもとに、地域の活性化に役立つセンターとなることを運営の基本としている。
- ・多彩なレンタルラボやオフィスの提供、ベンチャービジネスの起業支援、公的研究機関や大学と企業との連携の尊信事業、つくばで開発された技術情報の提供などを行っている。
- ・第3セクターという立場を最大限活用した公共団体や公的研究機関との連携が可能。
- ・会社組織だからこそ、公的機関より柔軟に事業を推進できるし、支援、範囲に制限は無い。
- ・県出資団体として県と同様の公的支援の実施が求められる。
- ・民間法人として独立採算が求められる。

TCIの起業支援・事業化支援策

- ・IMやコーディネーターが、ワンストップサービスで入居者の支援を実施。
- ・支援項目:会社設立支援全般、事業計画・収支計画・資金計画策定支援、助成金・融資・展示会・公的施策の情報提供、事業認定・助成金等の申請支援、展示会出展支援・資金調達支援・融資相談、公的研究機関への橋渡し、研究開発・特許取得等の支援、販路開拓支援・人材採用・育成支援 等々

Sotakuフロアでの産学官交流・連携

公的5機関による産学官連携支援

産業技術総合研究所……面談による技術相談、ものづくり情報の提供、専門分野の異なる5人が曜日毎に常駐

筑波大学交流オフィス……筑波大学の技術シーズの活用、専門家による技術相談

茨城県工業技術センターいばらきサロン……つくば地区の大学・研究機関と地域中小企業との交流・技術相談の窓口

茨城県中小企業振興公社……コーディネーターやエキスパートなどの専門家による技術相談から経営課題まで対応

TCI(創業支援と上記機関のワンストップサービス)……IM及びコーディネーターが、中小企業や創業者への創業・新事業進出を総合的に支援

最近のつくばの状況

- ・筑波研究学園都市・・・昭和38年閣議了解により国家プロジェクトとして建設開始以来42年が経過。
- ・この間、国、独立法人、民間合わせて300を超える研究機関や事業所が立地。
- ・約18000人の研究者を擁する世界的な科学技術拠点として成長を遂げてきた・・・10人に1人が研究者
- ・つくばエクスプレス 平成17年8月24日開業・・・つくばと秋葉原が最速45分、1都3県を結ぶ首都圏北東部を縦断、安全性・ユニバーサルデザインを追及、県内6駅・建設総額約9400億円
- ・市町村合併による学園都市の一体化の実現・・・つくば市(昭和62年谷田部町、大穂町、豊里町、桜村、筑波町、平成14年11月荳崎町が合併)
- ・TXから広がる新しい暮らし方「つくばスタイル」
- ・つくばエクスプレス効果・・・開業1ヵ月で381万人乗車。バブル崩壊による人口の都市回帰。
- ・新しいまちづくりの課題・・・ TX駅を交通結節点とした公共交通体系の再編 18年度からTX4駅への有料公共バスの運行予定(運賃200円が基本)事業予算:4億円内1億円運賃収入

筑波研究学園都市の課題

- ・国立の研究機関の独立法人化(平成13年4月)。国立大学の法人化(平成16年4月)・・・行政改革の一環としてスリム化、事業の効率化を目指す
- ・産学連携への期待 期待された研究成果、産学官連携による新産業創出の観点からは厳しい評価

出席報告 (白井 豊委員長)

会員総数	出席者数	欠席者数	賜 暇	メーク
49名	35名	14名	0名	11名

出席率 93.88%

ニコニコボックス (石塚克己SAA)

誕生祝御礼 会員 横山・山崎(善)各会員

配偶者 田中・山崎(善)・横山・島田・石塚(克)・小島 各会員

綿引様、卓話宜しくお願い致します。 青木(清)会員

生憎の雨でいすが、3月になりました。残すところ後4ヶ月です。楽しんでいきたいと思ひます。 熊谷会員

つくばみらい市合併協議会終了できました。今月27日新市スタートです。 秋田会員

女子フィギア荒川選手金メダルおめでとう。3人のメダリストの中でスタイルが一番良かった。 角田会員

本日、海小金管バンドの鈴木先生が来られます。3月5日のコンサートは、大勢のご参加をお願いします。

北村(英)会員

鈴木忠雄先生、ようこそお越しくださいました。3月5日の「金管バンド」のコンサート楽しみにしています。

穂戸田会員

例会欠席しました。鈴木先生ようこそ、3月5日楽しみにしています。 染谷(秀)会員

例会欠席しました。 田上・古谷・大塚・穂戸田 各会員

褒められました。 北村(仁)会員

早退します。 白井会員

本日雨のため上野動物園に行けませんでした。例会には出席出来ました。 石塚(克)会員

入金計 ￥70,000

累計 ￥1,543,000

ロータリー情報委員会より 一口メモ

ローターアクト:18歳から30歳までの青年のクラブにおいて、責任能力をもつ市民の資質と指導者としての能力を助長しようという意図でつくられた。最初のローターアクトクラブは、ノースカロライナ州のシャーロット・ノース・ロータークラブの提唱で結成された。

会報委員会 委員長 横山 修 副委員長 山野井周一 委員 根本恒夫